

## 平成27年度消防団員等公務災害補償の概要

(災害補償課)

平成27年度における損害補償費及び福祉事業費の支払件数及び支払額について、その概要を紹介いたします。

### 1 平成27年度における損害補償費等支払状況

平成27年度の損害補償費の支払件数は2,254件で前年度に比べて348件(△13.4%)減少し、支払額は1,819,922千円で同47,803千円(△2.6%)減少しています。

また、福祉事業費の支払件数は989件で前年度に比べて63件(△6.0%)減少し、支払額は466,802千円で同42,561千円(+10.03%)増加しています。

#### (1) 損害補償費

支払件数について種類別にみると、療養補償が1,314件(損害補償費全体の58.3%、前年度比△280件(△17.6%))と最も多く、次いで、遺族補償の638件(同28.3%、同△9件(△1.4%))、休業補償の161件(同7.1%、同△51件(△

24.1%))の順となっています。なお、この3種類で損害補償費全体の93.7%を占めています。

次に、支払額について種類別にみると、遺族補償が1,298,879千円(損害補償費全体の71.4%、前年度比△2,881千円(△0.2%))と最も多く、次いで、療養補償の241,408千円(同13.3%、同△3,416千円(△1.4%))、障害補償の210,714千円(同11.6%、同△36,641千円(△14.8%))の順となっています。なお、この3種類で損害補償費全体の96.2%を占めています。

なお、平成27年度に発生した事案といたしましては、認定された公務災害のうち訓練中の事故が約66%を占め、負傷内容については下肢の挫傷、骨折等が多くなっております。また、主な障害補償については、消防団施設の屋根の雪下ろし作業中誤って、屋根雪とともに落下し、圧雪上に座位で着地、さらに直後に圧雪が大量に背中に落下し、その後遺障害として脊椎損傷により、神経系統の機能に著しい障害を残し、常時介護を要するものなどがあり、遺族補償(死

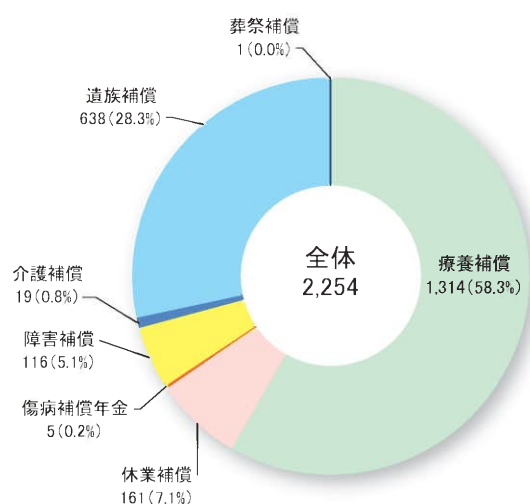


図1 損害補償費支払件数(単位:件(%))

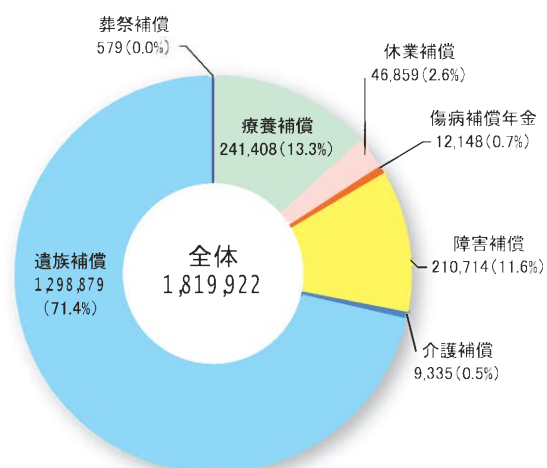


図2 損害補償費支払額(単位:千円(%))

注 割合及び全体は、端数処理により一致しない場合がある(以下図において同じ)。

表1 損害補償費における対前年度増減比較

区 分	増 減		主 な 要 因
	件 数	金 額	
療養補償	△280	△3,416	請求件数の減
休業補償	△51	△3,396	請求件数の減
傷病補償年金	0	△1,344	受給者減
障害補償	△8	△36,641	受給者減
介護補償	1	494	受給者増
遺族補償	△9	△2,881	受給者減
葬祭補償	△1	△619	請求件数の減

亡事案)については、操法訓練後消防庫への帰路走行中、車両後部のステップより転落し死亡したものがありません。

## (2) 福祉事業費

支払件数について種類別にみると、遺族特別給付金が549件(福祉事業費全体の55.5%、前年度比△4件(△0.7%))と最も多く、次いで、休業援護金の155件(同15.7%、同△51件(△24.8%))、障害特別給付金の109件(同11.0%、同△6件(△5.2%))の順となってい

ます。なお、この3種類で福祉事業費全体の82.2%を占めています。

次に、支払額について種類別にみると、遺族特別給付金が251,748千円(福祉事業費全体の53.9%、前年度比△1,246千円(△0.5%))と最も多く、次いで、障害特別援護金が50,150千円(同10.7%、同+21,300千円(+73.8%))、障害特別給付金の43,729千円(同9.4%、同△6,322千円(△12.6%))の順となっています。なお、この3種類で福祉事業費全体の74.0%を占めています。

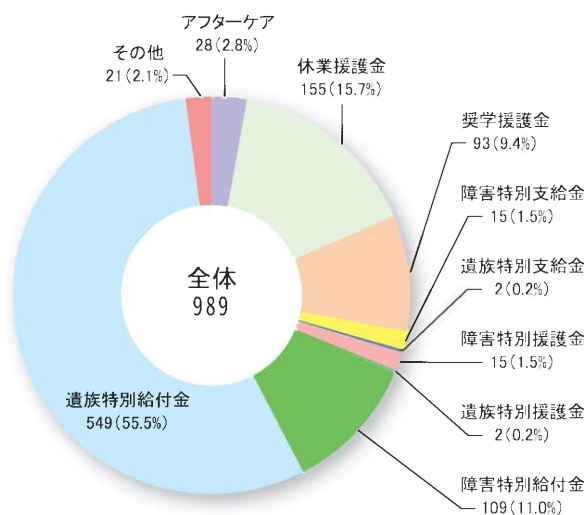


図3 福祉事業費支払件数 (単位: 件 (%))

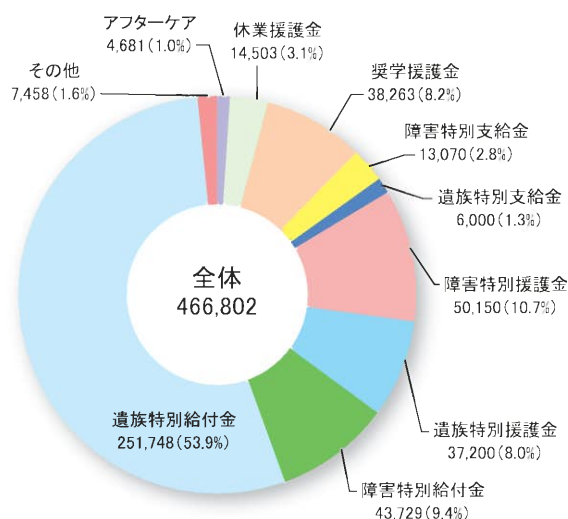


図4 福祉事業費支払額 (単位: 千円 (%))

表2 福祉事業費における対前年度増減比較

区 分	増 減		主 な 要 因
	件 数	金 額	
補装具	5	1,861	請求件数の増
リハビリテーション	0	△60	
アフターケア	3	△963	請求単価の減
休業援護金	△51	2,269	請求件数の減
奨学援護金	△1	1,018	支給単価の増等
就労保育援護金	△1	492	複数年の一括請求
傷病特別支給金	0	0	
障害特別支給金	△5	7,600	請求単価の増
遺族特別支給金	1	3,000	請求件数の増
障害特別援護金	△5	21,300	請求単価の増
遺族特別援護金	1	18,600	請求件数の増
傷病特別給付金	0	△363	受給者減
障害特別給付金	△6	△6,322	受給者減
遺族特別給付金	△4	△1,246	受給者減
旅行費	0	△86	請求単価の減

## 2 最近5か年間における損害補償費等支払状況の推移

平成23年度から27年度までの年度毎の損害補償費及び福祉事業費の支払件数及び支払額の推移をみると、平成23年度については、平成22年度末に発生した東日本大震災に係る遺族補

償とその付加給付である遺族特別支給金、遺族特別援護金等の支払のため大きく増加しています。平成24年度以降についても、震災による遺族補償年金が加わったため平成22年度以前より支払件数、支払額とも増加しています。

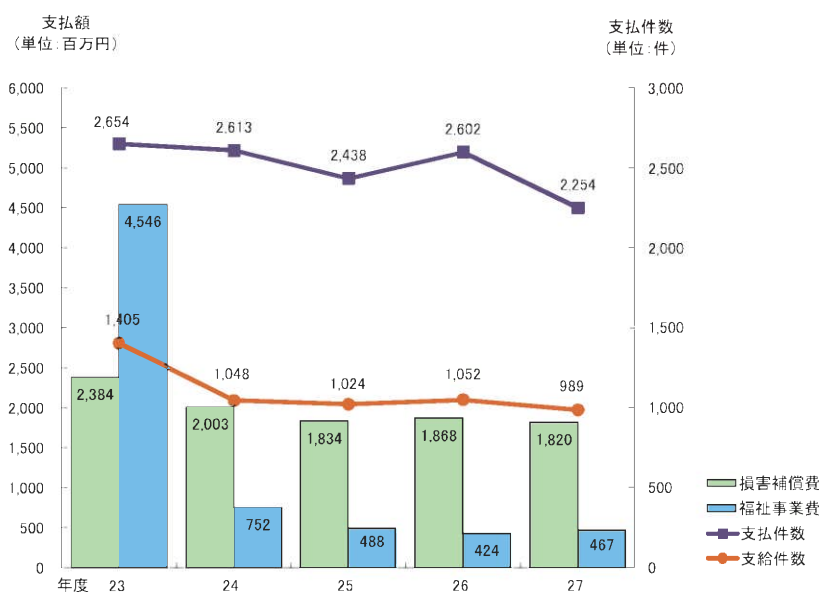


図5 最近5か年間の推移